

11月は、「児童虐待防止推進月間」です。(Vol. 4)

—低学年用DVDの内容をお知らせします—

11月30日に、「児童虐待防止啓発授業用教材」DVDを使って、2年生を対象に「虐待防止」の学習を行いました。その内容を紹介し、vol5にて、子どもたちの反応を紹介します。

【DVDの内容】



タイトル画面
「そうだんするって
たいせつなこと」



エピソード1
いたいことってイヤだね



教室でのようすです。仲良く
ノートをとっています。



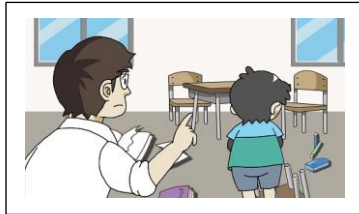
タカシさんが「貸して」も言
わずに太郎さんの消しゴム
を取り上げました。



太郎さんはおこって、タカシ
さんの手を叩きます。「痛い、
何すんねん」



ふたりは、教室で大げんかを
始めてしまいます。



先生が来て、けんかを止めました。「痛い事って嫌だよ」と先生
はいうのですが、感情的になっている太郎さんは素直に聞くことがで
きません。先生は太郎さんと放課後に話をすることにしました。

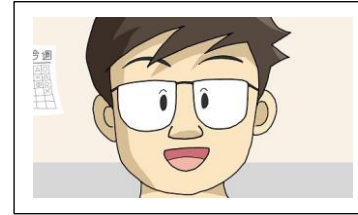
先生「何があったのか話してくれませんか。」

太郎「あいつが勝手に消しゴム取ってん。だから突き飛ばしてん。」

先生「勝手に消しゴムを取られたのが嫌だったんですね。」

太郎「貸しても言わんと勝手に取ったあいつが悪い。」

先生「貸しても言わないで勝手に取るのはダメですね。ですが、だか
らといって叩くのはいけません。叩いても何がいけなかったの
か分からないですよ。」



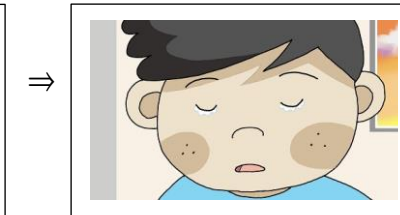
太郎「悪いことしたんやから、叩かれるのは当たり前やん」
先生「太郎さんは悪いことをしたら叩かれるんですか。怒っている
んじゃないですね家で怒られた時たたかれることがあるん
ですか」
太郎「でも僕が悪いねん。いつも言われるねん」

先生「悪いことをしても叩かれてもいい子なんかいません。もう一
度言います。叩かれていい子はいないし、太郎さんは大事な
子です。」

(太郎さんの回想)

父親「お前またゲームしてんのか。宿
題はやったんか。出されへん言
うことはやってないんやな。ゲ
ームばかりして、宿題やって
ないくせに嘘つきやがって。何
考えてんねん、アホ！」

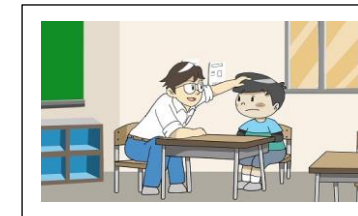
先生「テストが悪い時や、弟と喧嘩
した時も殴られるのですか」
太郎「殴られたり蹴られる時もある。
お前はうっとうしい。生まれて
こんかったらよかったのにつ
ていつも言われるねん。」



先生「そうか、殴られたりうっとうしいとか言われたりしていたので
すね。それはつらかったですね。痛かったでしょう。先生、全然
気づきませんでした。ごめんなさい。宿題をしないからといっ
て、叩かれたり、うっとうしいと言われたりすることはありませ
ん。話してくれて嬉しいです。ありがとうございます。これからも、こうし
て先生や周りの人に相談してください。
それから、タカシさんには、消しゴム貸して欲しかったら貸し
てって言うように、先生から話をします。明日、タカシさんを
たたいたことを謝れますか。

叩かれたら嫌だと言ってもいいんです。生まれてこなくてい
い子なんて、一人もいないのだから。そんなこと言われたら
先生に相談してください。叩かれる必要のある子なんて一人
もいないのです。

(太郎さんに笑顔がもどりました)



ひとりぼっちはさみしいな



ある日の夕方^{ゆうがた}の公園^{こうえん}です。ヨシコとハナコがブランコに乗って遊んでい^{あそ}ます。午後6時^じになりました。ヨシコ「6時^じやから家に帰るね」

ハナコが言いました。

「うちは帰りたくないねん。家に帰っても一人^{ひとり}やし。夜になっても誰も帰ってこへんねん。一人で家にいるのは寂しいし、お母さんは夜遅くに帰ってくるねん。お父さんは遠くに仕事に行ってるから、最近^{さいきん}おらんねん。ご飯はお菓子^{かし}があったら食べてる、いつも。時々、ご飯食べてる。お母さん作ってくれんねん。」



ヨシコ「お母さんが心配するし先に帰るなごめんな。また明日」

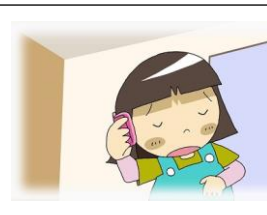
その夜のハナコさん



「お腹空いたなあ」



その時、ママからの電話が



「ママ朝まで帰られへんから冷蔵庫のおにぎり食べて寝ときや。」



ハナコさんはつぶやきます。「今日も一人ぼっちや…」

夕食時^{ゆうしょくじ}、ヨシコちゃんはお母さんに次のような話をします。

「お母さんハナコちゃん、夜になっても一人なんやって。ご飯はお菓子^{かし}なんやって。」

お母さんが言いました。「どうしたのお話聞かせて。」

「あな、ハナコちゃんが家に帰りたくないって言うねん。毎日ずっと一人やからって。ご飯作ってもらうこともあるけど、お菓子食べてるんやって、それで寂しそうな顔してて…」

母「そうか、ハナコちゃんがひとりぼっちなのは心配やね。教えてくれてありがとう。お母さんもお母さんのこと心配やから、明日学校の先生に相談してみるね。ハナコちゃんが安心してお家に帰れるようになるといいね。ヨシコは心配しているんだね。お父さんやお母さんに話してくれて嬉しいよ。周りの友達のことでも心配なことがあったら、いつでも話してな。」



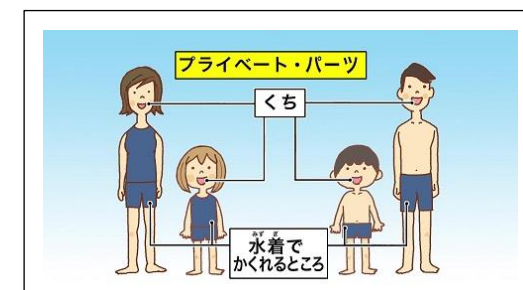
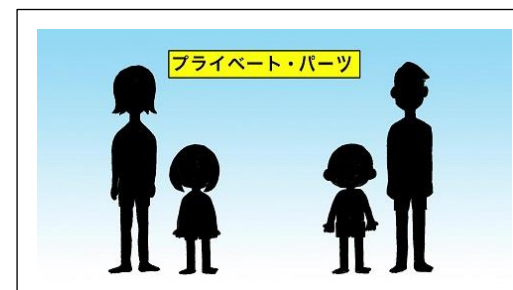
男の子が他の男の子のズボン^{たんぱん}をひっぱって、脱がそうとしています。担任の先生が止めました。

先生「はーいそこまで。みんな聞いてください。」

ズボンを脱がそうするのは、冗談^{しょうだん}でもいけません」



「体の大切な部分^{からだ たいせつ ぶぶん}のことを、プライベート・パーツというけど知ってますか？
プライベート・パーツというのは、口と水着を着た時に隠れる場所^{くち みずぎ き かく ばしょ}のことです。」



「これらは、他の人に見せても触らせてもいいけない自分の体の大切な場所です。だから、お父さんお母さんでも、お兄さんお姉さんでも、見せたり触らせたりしたらだめ。そしてみんなも、他の人のプライベート・パーツを見たり触ったりしてはいけません。」

いやなことがあった時は我慢せずに、「やめて」「いやっ」て言いましょう。そして、先生や周りの大人に相談しましょう。担任の先生や他の先生や、保健室の先生にお話ししてくれてもいいです。大人がみんなと一緒に頑張ってどうしたらいいか考えてくれます。

学校以外にも電話で相談できるところもあります。」

